

しおうじやま 四王寺山

「大野城から祈りの山へ」



大野城跡・ハッ波礎石群



四王寺山と博多湾を望む



大宰府政厅跡より霧立ちわたる大野城を望む

福岡県の日本遺産認定への取り組み

大野城跡が眠る四王寺山を後世に伝えるため、今年の二月に福岡県教育委員会が「防人のまなざし」というタイトルで「日本遺産」の認定申請をしました。残念ながら認定はなりませんでしたが、福岡県の文化遺産として再度来年の申請に向けて取り組んでいます。この「日本遺産」は、東京オリンピック・パリンピックが開催される二〇二〇年を目標に国が立ち上げた事業です。この年は「大野城」を紹介している『日本書紀』が完成して一三〇〇年の年もあります。

大野城の名称は、特別史跡「大野城跡」に由来しています。この大野城跡は標高410メートルの四王寺山の山頂一帯に築かれた古代山城です。今から1355年ほど前、朝鮮半島の百濟が唐と新羅によつて滅ぼされた際に、我が國は復興の援軍を派兵しました。韓国南西部の白村江（はくすきのえ）で唐の水軍と対峙しますが、壊滅的な打撃を受けてしまいます。これが教科書でも有名な663年の白村江の海戦です。敗戦後、我が国は再度立ち上がり、中央集権国家を目指すのですが、唐や新羅の襲来に備えて水城や大野城という緑辺部に巡らせています。総延長は約6キロメートル。おそらく東アジアでは最大級の規模を誇る山城でしょう。

城壁の基本は盛り土を固めた土塁で、谷間では石墨をつくります。「百間石垣（ひやつけんいしがき）」という石墨は規模も大きく、その強固な威容はとにかく圧巻です。また、城内の各所には奈良の正倉院のような米倉（こめぐら）が50棟近くも整然と立ち並んでいたことが分かつています。20万人の一年分相当の蓄えだそうです。古代には非常時の食料備蓄基地でもあつたようです。

四王寺山の名称ですが、大野城を築城した100年後に城内に四天王寺（してんのうじ）が建立されたことに由来します。目的は新羅が日本を呪詛（じゅそ）しているとの情報がもたらされたことから、これに対抗するために朝廷は、新羅に面した高く清らかなこの地に四天王像を祀つて、その加護のもとで新羅の災いを払い国家安寧をはかるうとしたのです。四天王像とは、毘沙門天、持国天、增長天、広目天。

現在、この大野城跡へは太宰府市や宇美町そして大野城市から車道や登山道を通つて登ることができます。お勧めは大野城市が整備した「大野城トレール（自然と歴史の散策路）」を利用することができます。お勧めは大野城市では、豊かな景観と自然や文化財そして街並みをつなぎます。お勧めは大野城跡の写真提供・九州歴史資料館

“驚き!! 日本100名城に選ばれた「大野城」を訪れる”

福岡県立四王寺県民の森 来園者の推移 (人)		
	平成26年度	平成27年度
個人	257,886	261,189
団体	10,085	11,603
合計	267,971	272,792
	265,896	10,241
	276,137	

(県農林水産部 林業振興課提供)

※ 大野城跡の写真提供・九州歴史資料館

左記のように四王寺山を訪れる人が多さに驚きます。「四王寺山」を観光資源として「歴史探訪の魅力を発信するところ」「ふるさとをつなぐ」一助となります。今年から「おおの山城大文字まつり」（9/23～24）で、四王寺山に灯される「大」の字のあかりが、9月13日から24日までの12日間灯ることになりました。ふるさとを想う郷愁をさそう市民のまつりになることを願います。



四王寺山に灯る「大」の字

大野城の眺望スポットからは、眼下に水城の姿や博多湾までも一望することができます。当時の防人（さきもり）も同じ場所に立つて、外敵の船姿を捉えようと目を凝らしたに違いありません。まさに未曾有の国難のなかで築かれた国家を作り上げようとした歴史のパノラマがそこに展開されているのです。私はこの歴史舞台と眺望を満喫できる展望所の整備に取り組んでまいります。



巨大な石垣・百間石垣（ひやっけんいしがき）